

一般公開シンポジウム「君は想定外の洪水から生き残れるか ～e-sports@KasenBousai～」を開催

ICHARM では、ICFM9 開催に合わせ、2月19日(日)13:30 から一般向けの公開シンポジウムを開催しました。シンポジウムにおいては挑戦的な試みとして、ICHARM で開発中の「仮想洪水体験システム」を活用し、つくば近郊の6校(筑波大学、茨城県立竹園高校、茨城県立並木中等教育学校、つくば市立学園の森義務教育学校、つくば市立谷田部東中学校、つくば市立手代木中学校)による「水防災競技会」を実施しました。

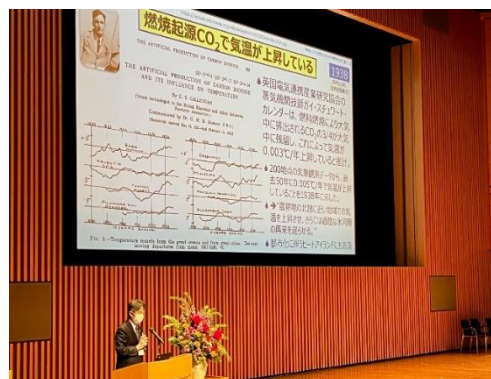
ICHARM 松木グループ長の開会挨拶後、東京大学総長特別参与、大学院工学系研究科 沖大幹 教授から「気候変動と洪水」と題して基調講演を頂きました。

沖教授からは、近年 CO2 濃度が年々上昇して地球全体の気温が上昇を続けていること、さらには温暖化に伴い地球上の多くの地域で洪水頻度が増加するとする研究結果が紹介されました。また、東京は東アジアだけではなく世界のどんな地域でもこれまでに経験されていない気候リスクに曝される可能性があることなどが紹介されました。

続いて、e-sports の要素を取り込んだ「水防災競技会」を開催しました。会場フロアを大きく6つに分け、それぞれの区画に仮想洪水体験システム用のパソコンと大型モニターを設置し、各校の代表者が自らの分身となる「アバター」を操作して、いかにうまく避難前の情報収集を行いつつ、効果的な避難が出来るかを得点形式で競いました。競技会では、解説の筑波大学白川直樹准教授とともに

ICHARM 栗林上席研究員が実況を行い、合間には洪水に関する質問の回答をいただきつつ進行しました。各校の避難の様子は、ステージ上の大型スクリーンで確認できるため、会場は大きな盛り上がりを見せていました。また、競技中は逐次チャット方式で、参加校を応援したりコメントを投稿したりできる仕掛けを導入しました。

続いて、今回の仮想洪水体験システムで用いられた研究紹介として ICHARM 久保田上席研究員から「水位予測システムおよび氾濫解析」、および新屋上席研究員から「疑似洪水体



東京大学総長特別参与、大学院工学系研究科 沖大幹 教授による基調講演



「水防災競技会」の様子



下館河川事務所 海津所長による講演

験システムの開発」の説明を行い、最後に国土交通省による洪水被害軽減の取組である「マイ・タイムライン」の紹介を国土交通省下館河川事務所の海津義和所長からご説明を頂きました。

「水防災競技会」に参加した生徒からは、「対抗戦では、他校と一緒に競技ができて楽しかった」「実際に洪水が襲ってきたら、どのように避難をするか、イメージをしながら勉強することが出来た」などの感想が寄せられました。シンポジウムの全体参加者は70名ほどでしたが、競技会の形式で、会場全体で仮想洪水体験システムを体験する方式としたため、会場全体の共同体験として、より各参加者の記憶に深く刻まれることとなったことが推察されます。